

# 記事の書き方

文 編集部 ほげ

## 1 まずはじめに

### 1.1 pL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>Xを使う

#### 1.1.1 macOS・Linux

*article\_name* は適当な名前として、以下のようなコマンドでブランチを分けましょう。

```
1 git submodule update --init
2 git checkout -b personal/username/article_name
3 cd ./articles
4 cp -r ./hinagata ./my-article-name
5 cd ./my-article-name
6 make
```

#### 1.1.2 Windows

WORD クラスファイルは Windows でもコンパイルすることができます。次のように **cmake**を使います。

```
1 git submodule update --init
2 git checkout -b personal/username/article_name
3 cd ./articles
4 cp -r ./hinagata ./my-article-name
5 cd ./my-article-name
6 make
```

### 1.2 LuaL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>Xを使う

WORD では新たに LuaL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X が使えるようになりました。

macOS・Linux **make**のかわりに **LATEXMKFLAG=-lualatex make**を利用する。

Windows **make**の前に **set LATEXMKFLAG=-lualatex**として、環境変数を設定する。

## 2 記事を書く

記事を書いたら、`make` コマンドでビルドできます。

```
1 git add *
2 make
```

これで `main.pdf` が生成されれば成功です。あとは `main.tex` を編集すれば記事が出来ます。

## 3 Git サーバに push する

記事のキリの良いところで `git push` するといいいのですが、最初の `push` の時には、`origin`<sup>\*1</sup> に新しいブランチを登録する必要があります。それは以下のようにしましょう。

```
1 git push origin personal/username/article_name
```

`push` を成功させた場合には、ビルドの結果が `slack`<sup>\*2</sup> の `#jenkins` チャンネルに流れます。`slack` を見ていない場合は、<https://jenkins.word-ac.net/job/LaTeX/> および <https://gitiles.word-ac.net/> を見ると良いでしょう。

## 4 ヒラギノフォントを埋め込む

`macOS` を利用しているなど、手元のコンパイル環境でヒラギノフォントが利用可能な場合は、次の手順でヒラギノフォントを埋め込んだ `PDF` ファイルを作成できます。

### 4.1 `plATeX` の場合

```
1 sudo cjk-gs-integrate --link-texmf --force
2 sudo mktexlsr
3 sudo kanji-config-updmap-sys hiragino-elcapitan-pron
```

この状態で `make` することでヒラギノフォント埋め込み `PDF` が作成されます。

### 4.2 `LuaLATEX` の場合

`macOS`・`Linux` `LATEXMKFLAG=-lualatex make` のかわりに `WORD_FONT=hiragino-pron LATEXMKFLAG=-lualatex make` を実行する

`Windows` `make` の前に `set WORD_FONT=hiragino-pron` を実行する

---

<sup>\*1</sup> ここでは `WORD` の `Git` サーバである `gitolite.word-ac.net` のことです

<sup>\*2</sup> <https://word-ac.slack.com>

## 5 トラブルシューティング

### 5.1 偶数頁

編集作業をしていると、レイアウトの問題で偶数頁から開始していただくことがあります。

`\documentclass`のオプションに`[evenstart]`をつけることで簡単にできます。

```
1 \documentclass[evenstart]{word}
```

### 5.2 「文 編集部」の削除

編集部以外のメンバーが執筆する場合「文 編集部」は必要ありません。「文 編集部」は以下のコマンドを`\documentclass`から`\begin{document}`の間のどこかに書くことで消せます。

```
1 \authormark{}
```

## 6 鍵の登録

Git サーバに鍵を登録しないと、push できません。もしそれが原因でつまっている場合には、誰か権限を持っていそうな人に頼んで登録してもらいましょう。2016 年 6 月現在では、pi8027, yyu, ioriveur, shrinkbr, osyoyu, chris, nymphium が部員を登録できます。鍵が変わった場合も声をかけましょう。

## 7 他の問題について

問題があれば slack の#latex チャンネルや、編集会議で聞くと良いでしょう。

直接詳しい人に SNS で聞く場合、@\_yyu\_<sup>\*3</sup>へ投げると早い。Lua<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X に関しては@Nymphium<sup>\*4</sup>か@azuma962<sup>\*5</sup>へ。クラスファイルの全体的な質問は@hid\_alma1026<sup>\*6</sup>へ。

---

<sup>\*3</sup> [https://twitter.com/\\_yyu\\_](https://twitter.com/_yyu_)

<sup>\*4</sup> <https://twitter.com/Nymphium>

<sup>\*5</sup> <https://twitter.com/azuma962>

<sup>\*6</sup> [https://twitter.com/hid\\_alma1026](https://twitter.com/hid_alma1026)